

# 原発事故被害者 相双の会

## 連絡先

國分富夫(会長)

## 住所

〒965-0013 会津若松市堤町6-12

電話 090(2364)3613

## メール

kokubunpi-su@hotmail.co.jp

## 事務局

鈴木宏孝 090-2909-6133(浪江)

坂上義博 090-1067-7265(大熊)

板倉好幸 090-9534-5657(南相馬)

## どうした「福島民友」！ 被害者の苦しみを正しく報じてほしい

私たちは「福島民友」(4月27日)を見て啞然とした。「賠償の金で揺れる」と大きな見出しで、「賠償金を得て酒、ギャンブルにはまり家族に生活費を残さない」、「賠償金」を「管理する親に対し、子どもから『俺の金は何に使ったんだ!』などというセリフが出てしまう」、「賠償金が避難者の就労意欲低下につながる例もあり…働けない、働かない親を仮設住宅の至近距離で見してきた影響は計り知れない」などなど。まるで賠償金のために家族が奪い合い、仕事もしないかのようなことが書かれていた。賠償金などやるからこうなるとも読める。

ただですら避難者への差別に苦しんでいるのを、「民友」ならわかるはずなのに、何という記事だろうか。ごく一部にはこういう例もあるかも知れませんが、ごく一部の例を上げ避難者は賠償金におぼれ怠け者になっているような書き方にどれだけ傷つけられたことか、孤独死、自殺者が多くでている現実を知っての事でしょうか、しかしこんなみじめな家族をだれが望もう。仕事もなく一日すごす辛さをだれが好もう。

すべて原発事故のせいではないか。生活再建や原状回復には程遠い金額のつかみ金でごまかし、狭い仮説におしこめ、人生の展望を真っ暗

にしている国と東電のせいではないのか。せめて地元の新聞だけは、被害者の真実の声をつたえてほしい。

「相双の会」に寄せられている真実の声を少しだけ紹介しよう。

### つたえてほしい真実の声

「双葉町から埼玉県内にいる娘のそばに家を建てようと土地や物件を探し歩くこと何か月…。良いな～と気に入っても土地が3,000万円以上、建物が4,000万円以上。

これでは賠償金が入ってもとてもとても無理無理。賠償金だけをあてにして家を購入したら、残りの人生をどうやって生活していくかとても不安。夫婦50歳過ぎて失業中。仕事も無い。これでは生活が成り立たない。結局はあきらめる方向だ」。

「妻は家の中に閉じこもりがちになった。賠償金の話も生活再建の話しも、口を開けばケンカになる。最近はあまり会話も無くなった。うつ気味だ」。

「仮設が手狭で、思い切っていわき市中央台住宅団地に中古物件を購入した。ご近所への引っ越しのあいさつ回りで、よろしくお願いま

すと、品物を渡した。どこから来たのか聞かれて、以前は会津若松ですと答えた。いや、その前はどこにいたの？としつこく聞かれ、『大熊町です。』と答えた途端、『あっ、うちはそういう人とはお付き合いしません。』と、引越し挨拶の品物を突き返された。『富岡町から避難して、いわき市中央台に居たが、いわき市民とのあつれきが酷いと聞き嫌になって、いわき市の別の

場所のアパートに移った。避難してきたとは言いたくない。言えない』。

「夫が東電社員。夫はボロボロになって働いている。給与2割カットし、ボーナスは無し。夫は加害者意識が強く、夫婦で賠償金の話はタブー。でも家のローンもある。子供の教育費(大学生二人)もかさむ。妻はパートに出ている」。

## 避難者をあたたかくつつむ—東京・埼玉で



### 南相馬の女性の東京リフレッシュ

四月半ばの東京・吉祥寺に、かつての避難指示地域南相馬市小高地区に代々住み暮らし、原発事故発生直後に着の身着のまま家族と逃げ惑ったのち、現在は会津若松の仮設住宅にお住まいの三人の女性がやってこられました。東京で現地のお話を聞かせていただくとともに、つかのま不自由な避難生活の日常から離れてリフレッシュして頂きたいと思い、お誘いをしていたのです。

まずは宿舎で歓迎夕食会。昨年11月福島ツアーで交流したメンバーたちが集まり、再会を喜び合いました。翌日はお天気もよくなり、は

とバスで都内観光。お客様たちは「三年ぶりに、屈託なく笑い、大声をあげて街を歩きました。」とのこと。

翌翌日は世田谷で、「三人を囲んでお話を聞く会」を開催。同じような世代を中心に十数人が熱心に耳を傾けました。

「私は原発の爆発音を聞いたのです。空気銃とも違う音に何だろうと夫と顔を合わせました。」

「今いる住まいは人間の住むようなところではないけど、ここしかない。」「翌日すぐ帰れるだろうとお茶碗も洗わずに逃げた。でも三年経っても元の家のお茶碗はまだ洗えないまま。」「避難した会津は知り合いもないし、雪が深くて寒くて外にも出られず引きこもっている。これからどれだけ頑張れるか、先が見えない。」

他人ごととは思えない切実なお話に胸がつまる思いでした。国策と東京への電力供給に踏みつけにされた個々人の過酷なご体験に対して、東京でその恩恵を受けてきたわれわれにできることは何でしょう。

新聞やTVでもだんだん取り上げなくなっている中、小さくても手作りでこのような会をもつことはそのひとつだと思います。

三人は「東京の方たちがこんなに熱く私たち

のことを思っていてくれるとは思わなかった。またがんばらなくちゃ。」と帰途のバスに乗り込んでいかれました。

福島子どもたちとともに・世田谷の会  
かつもり まちこ

## 埼玉で福島から 避難させられている方との交流会

「福島をもっと知らなければ…」と仲間に声をかけ、4月5日（土）さいたま市で近くに避難してこられた方たちと交流しました。

ドキュメンタリー映画『子供たちと生きるために一福島の教師たち』を鑑賞。放射能をどう教えるか。手探りで動き出している教師の方からDVDを貸してほしい旨、声をかけられました。

ある大工さんは、葛尾村出身の小島力さんの詩集『わが涙傍々』出版記念会が主催したバスツアーに参加した報告をしました。私も夫婦でこのツアーに参加したのですが、「行って見なければわからない」が彼の感想でした。

さいたま市に避難させられている南相馬市小高区の元教師の方は、娘さんの近くにアパート

を借りて住んでいます。小高で80坪の家に住んでいた方が、今は6畳2間のプレハブのようなアパートにご夫婦で住んでおられるのです。怒りを表面には出さないが、機会あれば原発被害の実態を訴えています。

同じ小高区で、17代続いた農家を途絶えさせることにならないか、と心配される方。こちらも娘さんの近くにご夫婦とお母さんの3人暮らし。先祖代々つくり上げてきた肥沃な農地を「除染」と称してはぎとられる。1cmの農地をつくるのに100年はかかる、とおっしゃる言葉には怒りがにじみ出ています。老親は都会にきて歩くところもなく、足腰の衰えがひどく、ご夫婦の介護の負担は大きい。いずれもご近所の方がよくしてくれるのですが、やはり福島のほんとうの話はできない、といいます。「そんな話をしなくてすむ、普通の生活を返せ」という気持ちだということです。

こうした話を聞かせていただいて意見交換をしました。まだ手探りではじめた交流の場です。もっともっと福島を知らなければと思います。3回目は6月15日（日）に行います。

埼玉 荒畑勝

## 「美味しんぼ」の鼻血が大騒ぎするのは、やましいからか

避難指示が出たが何処へ避難すれば良いのか分からず、阿武隈山間の村へと避難した。しかし、避難した所はとてつもなく線量が高かった。放射能の知識も低いこともあった。

年間許容線量1ミリベクトル(0.23μシベクトル)をはるかに超える。40μシベクトル/h(2011年3月14日飯舘村役場付近)双葉町上羽鳥地区1590μシベクトル/h、無責任にも事故後1年も経過してからの公表です。これでも政府や県の言うことを信用できるでしょうか。「直ちに人体や健康に影響を及ぼす数値ではない」などと言えるでしょうか。

県民に真実を何も知らせようとしなかった政府・県や原発推進者は、「美味しんぼ」に対し大騒ぎしているが、実際に「鼻血が出た」と言っているのだから、国民が納得いくような科学的な調査研究をするのが先ではないでしょうか。

## 被害現場を見ての中学生の感想

東京 越田みのり（12歳 南相馬の避難者の孫）

私は津波におそわれた場所、原発事故による避難区域に指定されている所を見て、いろんな事を思いました。

福島県は私の生まれたところであり、おじいちゃん、おばあちゃん、従兄弟など親戚がたくさん住んでいます。震災の事を電話などでおじいちゃんおばちゃんから聞いていましたが、実際見てみると想像をはるかに超え何とも言えませんでした。

私がよく遊びに行っていた頃とは全然違い、ものすごく静かで向こうを見れば見えるはずのない海が見え、少し進むとあるはずのない所に家があり（流されてきた家）、草は伸びほうだいで、本当にここは私が生まれた所なのと疑って

しまうほどでした。

原発事故の影響で復興もろくに進まず、政府はまた原発を稼働させようとしている。そんな中でも私の親戚を含め被災者の皆さんは心に深い傷を負ったにも関わらず、また帰りたい、復興させたいなどの強い気持ちを胸に一歩ずつ前に進んでいるのがすごく伝わりました。

私はこれからの人生を避難者のように頑張っている事を忘れずに何事にもあきらめずに頑張りたいと思います。

見て感じたこと、それは近所どうしの絆の深さです。今はバラバラになったかも知れませんが、私が遊びに行っていた頃の明るさ、温かさは近所どうしの深い絆だったんだなとすごく感じました。

## 福島地裁への署名にご協力を

署名が続々と届いています。ありがとうございます。福井地裁が大飯原発再稼働差し止めを関西電力に命じ、京都地裁が自主避難者の訴えにもとづいた損害賠償の仮払の命令を東電に出すなど、最近司法の良識ある判断が続いています。多くの署名で福島地裁も動かしたいと思います。よろしくおねがいします。

### 「相双の会」 会報に ご意見を

是非ご投稿をいただき「声」として会報に載せたいと考えています。

匿名でもけっこうです。

電話 090 (2364) 3613 メール (國分) kokunpi-su@hotmail.co.jp

